④市内公共交通の利用促進「生活交通施策」 部課担当名 : 総務部 政策形成課 企画担当

## 出された質問・意見 (O質問 ●意見)

- ○市内循環バスのメリットで街歩きがあったが、歩く方が増加したというデータは?⇒とっていないが、公共交通利用者が増加していることから増加しているものと判断。
- ○乗合タクシーは大きいイメージがあるが、どのくらいか⇒一般のタクシー車両を活用している。4人乗り。予約人数によっては大きいものも用意できる。
- ○同時間に予約が入った場合には同乗して目的地まで行くのか?⇒乗合で行く。それぞれの目的地まで同乗。
- ○循環型に変えたことで、以前のバス路線との効率は上がったのかどうか?⇒アンケートを取っているが、いままで行けなかった施設等を利用する方が増加。外出機会も増加。
- ○具体的な利用者数は、以前の路線バスと比較してどうか?⇒以前の路線バスと比較はできないが、改善していると感じる。
- ○どこからどこまでの利用が多いか⇒病院、買い物、公共施設。
- ○バス、タクシー利用者の年齢層は⇒高齢者7割。通勤で利用する方も増えつつある。若い世代は利用が低い。
- ○若い世代の利用割合が低いのは、電車との連結が無いからではないか⇒都留市駅とつなげているが、学生の場合は一限目にあっていない。学生への配慮を検討する。
- ○高齢者が利用しているのをスーパーで見た。良い取り組みなのでは。学生の利用が低いが、もともと学生利用を想定していたか⇒自治会等に説明に伺ったが、若い年齢層には意見をうかがっていない。現在第二期の計画策定を進めているが、学生の意見も反映させていきたい。こんなものがいいという意見を聞きたい。
- ●バスの中に子供の絵を貼ることで保護者を呼び込んだり、コラボレーションバスなど、公共交通を使うことがメリットとなる付加価値をつければ利用者が増加するのではないか。
- ●大学生の利用が見込めるルートなどを検討しては。乗合タクシーをメインとして。その間の 10 人乗りなどを用意できれば使いやすいかも。⇒乗合が使いやすければ検討したい。なにか ニーズがあれば聞かせてほしい。
- ●現状で電車賃が高いのを考慮し、県内の就職活動などで活用できればよいのではないか。帰省シーズンに大月駅まで出れば利用者が増加するのでは。
- ●月待ちの湯に行く場合、歩きでは無理。バーベキュー場とセットで、10時頃から3時頃に帰るパックを作ればどうか。学生は利用しそう。
- ○三重県では利用者減に苦しむ鉄道がある。電車内で相談事業や居酒屋事業などをやっている。最終地には温泉があって、そこへ運んでいる。バスにも移動手段以外の機能を持たせるのも おもしろい。
- ●大学と連携して学生課から通知してもらい、サークルなどでも使えればどうか。⇒大学へ広報する機会がなかったが、今後協力を得ながらうまくいけば宣伝活動をしていきたい。
- ●バスを利用した方に、事業者のグッズなどを配布したらどうか。⇒協力を得ながら柔軟に対応していきたい。
- ○大月まで行けば利用してみたい。⇒大月というキーワードがでているが、文大駅から大月まで直行便があった場合、月何回利用しそうか。
- $\bigcirc$ 12 月以降は就活の説明会が月 2 回以上はあるので、12 から 3 月まではかなり利用すると思う。また、8 月などの帰省時などは多いと思う。
- ○実家が甲府なので、月1回は帰る。多いときは月2,3回⇒飲み会などの後、夜間便などの要望はあるか?
- ○学生に夜間便はあまり必要ないと思われる。
- ○地域の利用増をめざし、二次的に学生利用を目指すのが現実的である。
- ○マップについて、どこになにがあるかはわかるが、バス停は分かりにくい。学生でも離れた場所に行くこともあるため、細かい案内があれば利用しやすいかもしれない。

#### 評価結果・提案内容まとめ

- ・バスを乗り物としての活用に限定するのではなく、ツアーパックの付与や他事業とコラボレーションするなど、付加価値を付けることで利用者の増加を見込める。
- ・学生の利用者増を図る場合は、帰省時期や就職活動時期など、シーズンを意識した便を設定し、学生のニーズを取り入れた特別便を検討するべきである。
- ・利用者が少ない地域では、そこに住む高校生が卒業までを意識した運行内容を検討しても良いと思われる。

# 今後の方向性

### 今後の方向性等

公共交通の利用者獲得に向けては、付加価値のある公共交通活用策について検討する。 また、循環バス等の時刻設定や路線については、児童、生徒も含めた学生の利用を促進 する方策について事業者と協議を行い、利用者数や収益率の向上を図る。

### 【具体的内容】

- ・子どもの絵を車内に張るイベントや、民間事業者による車内健康相談の実施、スーパーや商店街とのイベントのタイアップなど、付加価値をもった公共交通の導入に策を講じる。また、地域公共交通会議においても、今回の提案内容について協議し、新たな利用者の獲得を図る。
- ・循環バスの運行マップについて、バス停の位置が分かり易い内容のものを作成する。

